

## 2024 年度「卒業研究」（社会学科）課題

春学期：西山志保・李ミン珍・三輪哲・石川良子

秋学期：片上平二郎・杉浦郁子・中澤渉・本多真隆・野呂芳明

各学期について、2つの課題を選択し、4つの課題について4月3日(水)15時までに

Google フォームで希望を提出すること。課題について詳しくは、[R Guide](#)に説明がある。また、各学期、第一回の授業に出席すること。

各課題は4000字以上(図表込み)とする。4つの課題で16000字以上は書くことになる。執筆の際には、第三者が読んでも分かりやすい文章になるよう、注意すること。立教大学 大学教育開発支援センターwebにあるMaster of Writingを、よく参考にすること。

また、文献を引用する際には、剽窃がないように注意すること。引用元を明示せずに引用すると、盗作したことになる。また別の教員の課題に、ほぼ同じ内容の課題を提出することも不正行為となる。引用法や引用形式について、十分に注意すること。

### 春学期

#### 【社会1】西山志保

あなたの関心ある都市問題（例えば、都心衰退問題、住宅問題、待機児童問題など）を一つ取り上げ、以下の課題を4000字以上のレポートとしてまとめなさい。現地で2件以上のインタビュー調査を行うことを必須とする。

- ① 都市問題が発生した社会的背景と国や自治体レベルの社会政策などから、問題の概略をまとめる。ただし3冊以上の文献を利用すること。
- ② その問題に対して自治体レベルでどのような政策がとられているか、自分で適当な自治体を選び、その自治体からデータ収集するなどして明らかにする（資料出典を明記）。
- ③ あなたの選んだ自治体において、その問題に取り組んでいる市民活動団体（NPO、ボランティア団体等）を取り上げ、インタビュー調査を行い、どのような方法で問題解決を目指し、直面している問題等は何か、自治体との役割分担について分析する。

#### 【社会2】李叟珍

いま私たちが直面している、工業時代を超えて新たな発展段階に入った社会や経済は「ポスト工業社会」、「情報社会」、「ニュー・エコノミー」、「知識経済」といった様々な用語で記述されている。いずれの用語の社会や経済においても、人々の働き方は大きく変化していると言われている。3つ以上の文献を読み、「ポスト工業社会」、「情報社会」、「ニュー・エコノミー」、「知識経済」における働き方の変化に関する諸議論を整理したうえ（諸議論の整理は4つの用語すべてについて行うこ

と)、働き方の変化に関する仮説を立て、働いている人(3名以上)を対象にインタビューを実施し、仮説の検証や検証結果に関する考察を行いなさい。

### 【社会3】三輪哲

現代日本社会における、社会階層による世論(あるいは社会意識)の分断を計量社会的に検証せよ。扱う世論・意識は、自身の関心のあるもので構わない。分析の結果に基づき、4000字以上のレポートを作成すること。なお、レポートは、以下の条件を満たさなければならない。

- ① 社会意識や世論研究にかかわる文献(書籍や論文等)を3点以上読み、それらからわかることを整理する。
- ② それら文献でまだ明らかにされていないもので、社会階層と意識や世論との関連を予想し、ありうべき関連の在りようについて仮説を立てる。
- ③ 上記の仮説を検証するために、社会調査データのオンライン分析を、SSJDA Data Analysis (<https://online-data-analysis.iss.u-tokyo.ac.jp/>) によっておこなう。
- ④ 結果の出力を適切に加工して、レポートへと貼り付ける。(図表も文字数にカウントする)
- ⑤ 結果をもとに仮説の適否を判断し、結論を論じる。
- ⑥ タイトル、文献リストなども、適切に記述する。レポートの形式は『社会学評論スタイルガイド』へと従うこと。

なお、ここでいう社会意識や世論をあらわす変数としては、政党支持などの政治意識項目、環境意識項目、性別役割意識項目、主観的地位などの階層意識項目など、さまざまな意識変数が候補となりうる。また、社会階層的な地位をあらわす変数としては、職業、雇用形態、所得、学歴などが候補となる。データの分析では、クロス集計表や、相関・回帰分析などの諸手法から、目的やデータに適したものを選択する。

希望者に対しては、レポートのフォーマットファイルや、オンライン分析のマニュアル(データの探し方も含む)を配布することができるので、三輪まで問い合わせること。

### 【社会4】石川良子

「大人になる」「自立する」とはどういうことか。①～③を4000字以上のレポートにまとめてください。引用・参照の仕方、文献リストなど形式は『社会学評論スタイルガイド』に準拠すること。

- ① まず、この問いに関連する5点以上の社会的な文献(書籍・論文)を読み、この時点での考えをまとめたうえで、インタビューで知りたいことを明らかにしてください。
- ② あなた自身が「素敵な大人だ」と思う人を2～3名選び(上記の問いについて語れるくらいに人生経験を重ねている年代の人)、ライフストーリー・インタビューを行ってください。
- ③ 最後に、インタビューをもとに上記の問いについて考察し、あなたなりの見解を示してください。その際は①でまとめたこととインタビュー内容を突き合わせ、新たに発見したことや気づいたこと、予想を裏切られて驚いたこと、感銘を受けたことなどを掘り下げることが大切です。

ライフストーリー・インタビューの参考文献は下記の通り(レポート本文で引用・言及した場合

のみ文献リストに加えてもよい)。

桜井厚, 2002, 『インタビューの社会学ーライフストーリーの聞き方』せりか書房.

桜井厚・小林多寿子, 2005, 『質的研究入門』せりか書房.

桜井厚・石川良子編著, 2015, 『ライフストーリー研究に何ができるかー対話的構築主義の批判的継承』新曜社.

## 秋学期

### 【社会5】片上平二郎

本課題は、過去の映像作品を素材として、そこに映し出された「社会のあり方」や「時代の気分」、「文化のディテール」などを読み取り、それらとの比較から「現代の社会」について考えることを目的とするものである。以下の指示に従い、4000字以上のレポートにまとめなさい（それぞれの要素が入っていれば、①②③④などの項目に分けて書かなくても良い）。

①：1960年代の日本映画を3本以上、1990年代の日本映画を3本以上、それぞれ鑑賞し、それらのタイトルを記すこと。

②：それらの映画に映っているものや描かれた物語の分析から1つのトピック、あるいはいくつかのトピックを抽出し、その枠組に基づいて1960年代の日本社会、1990年代の日本社会、2020年代の日本社会の比較を行い、日本社会の時代的変遷を描き出すこと（鑑賞したすべての映画を使用しなくとも良い）。その際に、その変遷や変化を説明する社会学的なデータを使用すること。

③：②の分析に基づき、90年代という時代の持つ社会的特質について分析すること。

④：レポート内で、5点以上の社会学的な書物や論文を参照すること。

\*注意：「映画」はあくまでも「フィクション」であり、直接的に「現実」を描き出すものではないことに留意して、その分析を行うこと。

### 【社会6】杉浦郁子

性をめぐる固定観念や規範は、個人の経験や社会のしくみに様々な仕方で影響を与え、ときに特定の集団を排除したり、深刻な問題を生じさせたりしている。現代日本で観察される性をめぐる格差、不平等、排除などの現象を1つ取り上げ、以下の内容について4000字程度のレポートとしてまとめなさい。

①取り上げる現象の概略をまとめなさい。

②その現象がどのようなメカニズムやプロセスで生み出されているのか、また、そのメカニズムやプロセスに性をめぐる固定観念や規範がどのように関係しているのかを分析しなさい。

③取り上げた格差、不平等、排除はなぜ解消されるべきなのか、また、どうしたら解消できるのかを考察しなさい。

④格差、不平等、排除の解消のために、あなたが実践したこと、行動に移したことなどがあれば、それを紹介しなさい。

注1) レポート内で、5点以上の社会学的な書籍や論文を引用参照すること。また、現象の実態を

示すために、質問紙調査データ、インタビューやモノグラフなどの質的データ、新聞社による調査報道記事などを積極的に引用参照すること。

注 2) ①～④までの内容が含まれていれば、どの順番で論じるかは自由。構成を工夫し、章や節に適切な見出しをつけること。

### 【社会 7】中澤涉

大学などの高等教育機関への進学機会の不平等を縮小するため、経済的支援を求める声が強まっている。このような現状を踏まえて、以下の問題について論じなさい。

①なぜそういった声が強まっているのか。その社会的背景を、具体的なデータや現象に言及しながら説明しなさい。

②経済的支援を行う際に問題になるのは、具体的な財源である。財源がどこにあるか、どこに求めるべきか、あるいは現実に確保可能か、といった点について論じなさい。

③経済的支援は、進学の不平等縮小に役立つと考えられるか。それとも、さほど効果がないと考えるか。あるいは、経済的支援の中身によって効果が異なるのか。あなたの予想と、そう考える根拠を、データや先行研究に言及しながら論じなさい。

文部科学省、厚生労働省、内閣府や総務省統計局の出している統計情報などのデータ、文書資料、報道記事などに言及し、上記の 3 点を漏らすことなく、どれについて触れているのかわかるように論じなさい。その際、適切な形で先行研究の著作や論文を引用し、末尾には引用した文献のリストをつけること。引用する文献（本・論文）は 5 本以上とする。なお、政府が出している審議会の資料、政策的な文書は、上記でカウントする本・論文の 5 本には含まれないので、注意すること。カウントしてよい文献なのか迷う時には、中澤に問い合わせること。

### 【社会 8】本多真隆

あなたが関心をもっている家族および親密な関係に関する事象（例：父親の子育て、結婚のあり方など）をひとつ取り上げ、それが日本の近代化のなかでどのように変容してきたのかを、以下の指示に従って論じなさい。

①その事象が、前近代社会と近代社会でどのように異なるのかを、社会学、歴史学の文献（3 冊以上）などを参考に論じること。

②近代以降に関しては、対象とする事象を論じるために 5 点以上の一次資料を引用すること。資料の収集は、国立国会図書館（国会図書館デジタルコレクション）、公益財団法人大宅壮一文庫、大学図書館などを活用するとよい。なお、①の参考文献からの孫引きは避けること。集めた資料が一次資料に該当するか迷うときには、本多に問い合わせること。

③選択する事象によっては、近代以降もさまざまな変容があったことが想定される。可能な限り現代の状況が浮き彫りになるようにその変容をまとめること。

### 【社会 9】野呂芳明

日本の少子高齢化と人口減少は、社会の各方面にさまざまな課題を顕在化させている。次の a. ～c. のテーマから 1 つを選び、以下のように論述しなさい。

- (1) 選択したテーマを明記する。
- (2) 自身のレポートの内容にふさわしいタイトルをつける。
- (3) 選択したテーマについて、少子高齢化と人口減少がなぜその課題を顕在化させることになったかを述べる。
- (4) その課題の概略について統計データ等の客観的資料を適宜引用しつつ簡潔に説明する。
- (5) その課題に対して国家や地方自治体などの公的部門がどのような政策を展開しているか具体的に（事例を挙げるなどして）説明する。
- (6) その政策的対応の社会的効果や課題点について考察する。
- (7) レポートをまとめるにあたっては、単行本や論文など5本以上参照し言及すること。

〈テーマ（1つを選択）〉

- a. 持続可能な福祉・社会保障のありかた
- b. 地方分権、地方行財政の課題
- c. 多様な人びと、ライフスタイルが共生する社会